

令和元年度
岩手県国際リニアコライダー推進協議会
事業報告書

（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）

(1) 国内・外の状況と活動概況

(2) 国等への要望活動の強化

(3) 国内・外への ILC 実現にむけた活動

- ア. 国内 PR の強化
- イ. 海外への情報発信強化
- ウ. 普及啓発活動

(4) 調査・研究事業

- ア. DESY（ドイツ・ハンブルク）・CERN（スイス・ジュネーブ）視察
- イ. ILC に関連する加速器関連産業への理解と参入機会の創出
- ウ. 東北 ILC 準備室の活動

(5) 広報活動

(6) 組織強化活動

- ア. 会員増強
- イ. 産・学・官・関係機関との連携

(7) 諸会議等

(8) 会員加入状況

(1) 国内・外の状況と活動概況

平成 31 年 3 月 7 日、文部科学省は、東京で開催された国際研究者組織 ICFA/LCB 会議において「ILC 計画に関心を持って国際的な意見交換を継続する」と日本政府として初めて公に ILC 計画に関する関心を表明した。

国内では、正式な学術的プロセスで議論が必要との見解により、高エネルギー加速器研究機構(KEK)は、3 月末、日本学術会議マスタープランに申請した。また、KEK では 5 月に ILC 国際ワーキンググループを設置し、建設経費・運転経費の国際分担についての考え方等のとりまとめを行い、「ILC プロジェクト実施に関する提言」として 10 月に公表した。

令和 2 年 1 月 30 日に公表された日本学術会議マスタープランでは、ILC 計画は重点大型計画に選定されなかったが、学術大型研究計画として認定され、59 件のヒヤリング対象となり、ILC 計画は学術研究として評価を受けたことで学術的プロセスが終了し、国家プロジェクトとしての推進に段階が進んでいる。

国外では、7 月にリニアコライダー国際研究所建設議員連盟（ILC 国会議員連盟）、文部科学省、研究者等が訪欧し、独と仏の両政府機関との間でディスカッショングループ（DG）を設置することに合意した。また、文部科学省は 11 月には英国とも意見交換を開始し、2 月には独・仏・英と 4 か国で意見交換が実施されるなど、コスト削減のための共同研究を進めている日米 DG とともに国際協議が進展している。

一方、ILC の研究者が集う国際会議「LCWS2019」が 10 月 28 日から仙台市で開催され、ILC 建設の重要性を再確認し、ILC の成功に向けて力を尽くすという「仙台宣言」が採択された。

令和 2 年 2 月 20 日から米国で開催された ICFA/LCB 会議においては、文部科学省は 3 月 7 日の見解表明以降の取組や考え方等を説明し、「引き続き素粒子物理学における一定の学術的意義にも鑑み、関心を持って米欧との意見交換を実施する」との見解を表明した。ILC 国会議員連盟河村会長もスピーチを行った。これらの報告に基づき、ICFA は「ヒッグスファクトリーに関する国際的なコンセンサスを再確認し、日本に ILC がタイムリーに建設されることを望む。準備段階への移行を促進するための国際推進チームの設立を推奨する」と声明を発表するなど、ILC の早期建設への期待が高まっている。

このような中、当推進協議会の令和元年度事業は、ILC の最新動向に関する国内外の情報収集に取り組み、国等への要望活動、KEK や先端加速器科学技術推進協議会（AAA）など ILC を推進する関係団体と推進連携体制を構築し、国際シンポジウムの開催、ILC プロジェクト動画の制作や ILC サポートの支援、各種イベントへの参加等による国民理解の一層の促進とともに「地球村創生ビジョン」（P16 参照）等の策定支援など受け入れ態勢の整備・準備活動に積極的に取り組んだ。

国内外の動向を踏まえ、3 月に ILC を契機とした地方創生等に関する公開講演会を企画したが、新型コロナウイルス感染防止拡大の観点から延期することとなった。

(2) 国等への要望活動の強化

① ILC 国会議員連盟、自民党 ILC 誘致実現連絡協議会

平成 31 年 4 月 3 日（水）／於：衆議院第一議員会館 国際会議室

出席者：河村会長、鈴木副会長、塩谷幹事長、甘利衆議院議員、細田衆議院議員、渡海衆議院議員ほか

発言者：文部科学省 磯谷研究振興局長

研究者：山内機構長（高エネルギー加速器研究機構：KEK）

誘致候補地：高橋東北 ILC 推進協議会共同代表

谷村岩手県 ILC 推進協議会会長

- ・候補地を代表して谷村会長は、3月7日政府表明以降の当推進協議会主催の弘兼先生を講師に招いた公開講演会の開催状況や要望活動等の活動の説明と東日本大震災被災地の東北にとって明るい夢と希望を抱かせるプロジェクトである ILC への強力な支援を依頼した。

②第1回 ILC 岩手会議

平成31年4月19日（金）／於：ホテルメトロポリタン本館

出席者：谷村会長、鈴木学長、成田教授、松岡 AAA 事務局長、大平理事、佐々木理事、橋本専務理事、廣田理事ほか

- ・今年度の岩手県の取組について、オールジャパンとして活動計画・方針について、最新の情報を共有した。

③第2回 ILC 岩手会議

平成31年4月25日（木）／於：アイーナキャンパス7階

出席者：谷村会長、鈴木学長、齋藤副会長、吉岡客員教授、成田教授、松岡 AAA 事務局長、大平理事、佐々木理事、橋本専務理事、廣田理事ほか

- ・2019年のスケジュール、オールジャパンとしての広報活動、省庁関係への説明について情報を共有した。

④第3回 ILC 岩手会議

令和元年5月16日（木）／於：アイーナキャンパス7階

出席者：谷村会長、鈴木学長、山下特任教授、齋藤副会長、吉岡客員教授、成田教授、松岡 AAA 事務局長、大平理事、佐々木理事ほか

- ・省庁関係への説明状況、6.12 東北総合要望の実施について情報を共有した。

⑤第5回岩手 ILC 懇談会（政産官学）

令和元年5月18日（土）／於：ホテルメトロポリタン本館

出席者：鈴木俊一大臣、達増知事、鈴木学長、谷村会長、大平理事、佐々木理事ほか

- ・鈴木大臣から政府、ILC 国会議員連盟、ILC の最近の状況等について、達増知事から岩手県の取組について、鈴木学長から KEK などの研究者の動向について、谷村会長から国への要望等の依頼など ILC 実現に向けた活動について情報を共有した。

⑥ILC 国会議員連盟及び自民党 ILC 誘致実現連絡協議会への要望

令和元年6月12日（水）／於：東京都 ザ・キャピトルホテル東急

要望先：河村会長、鈴木副会長、塩谷幹事長、甘利衆議院議員、細田衆議院議員、渡海衆議院議員、東北六県選出国會議員ほか

要望団体：東北 ILC 推進協議会、北海道東北知事会、北海道・東北六県議会議長会、東北市長会

要望者：東北 ILC：高橋共同代表、谷村会長、鈴木学長、知事会：達増知事、議長会：佐々木県議会議長、市長会：谷藤盛岡市長ほか

⑦東北 ILC 推進協議会、北海道東北知事会、北海道・東北六県議会議長会、東北市長会要望

令和元年 6 月 12 日（水）／於：総理官邸、復興庁、国土交通省、文部科学省

要望先：内閣府 菅官房長官、復興庁 安藤大臣政務官、国土交通省 森事務次官、文部科学省 磯谷研究振興局長

要望団体：東北 ILC 推進協議会、北海道東北知事会、北海道・東北六県議会議長会、東北市長会

要望者：東北 ILC：高橋共同代表、谷村会長、鈴木学長、知事会：達増知事、議長会：佐々木県議会議長、市長会：勝部市長、小沢市長ほか

【要望書】

国際リニアコライダー（ILC）日本誘致に関する要望

国際リニアコライダー（ILC）の日本誘致は、我が国が標榜する科学技術創造立国の実現、我が国の成長戦略にも貢献するなど極めて重要な計画であります。

さて、去る 3 月 7 日に開催された ILC の国際会議で、日本政府が初めて ILC 計画に前向きな関心を示されました。これは ILC 計画の推進にとって着実な前進であります。

また、ILC 計画の立地地域への効果についても言及されました。これは、建設候補地である東北にとり、ILC の建設、運用を通して、国際的なイノベーション拠点の形成が図られ、世界に開かれた地方創生の実現が期待されます。このことは、必ずや東日本大震災からの恒久的復興、ひいては、日本の成長にも貢献するものと確信しております。

今後、日本学術会議の「マスタープラン」での議論を経て、来年 2 月頃にはマスタープランが策定されると伺っております。

また、来年 5 月に決定する欧州素粒子物理戦略に、ILC 計画が高い評価で位置づけられることが必要であります。そして、そのためには、我が国の ILC 誘致に対する明確な意思表示が極めて重要であります。

さて、本年 10 月末には、リニアコライダー国際会議「LCWS2019」が、仙台市で開催されます。これは 2016 年の盛岡開催の場合と同様、ILC 実現への東北の熱意を世界に伝える絶好のチャンスであります。

今後とも、私ども東北 ILC 推進協議会は、東北はもとより全国の関係組織との連携を一層深め、ILC の日本誘致実現に向けた活動を、更に強化して参る所存であります。

政府におかれましては、特に下記について取組まれますよう、強く要望いたします。

記

日本政府が海外に対し、早期に ILC の日本誘致に向けた、より明確な意思表示をされること。



菅官房長官への要望



文科省 磯谷研究振興局長への要望

⑧日本商工会議所・日本経済団体連合会、日本経済同友会との面談

令和元年 7 月 31 日（水）／於：日本商工会議所、経団連会館、経済同友会事務所

面談者：松岡 AAA 事務局長、猿川事務局長

応対者：日商：五十嵐地域振興部長ほか、経団連：吉村産業技術本部長、同友会：斎藤執行役
・ 4 月以降の ILC の国内外の動向について説明、情報を共有した。

⑨地元選出国會議員・中央省庁への要望

令和元年 9 月 18 日（水）／於：グランドアーク半蔵門、復興庁、文部科学省、中小企業庁

要 望 者：谷村会長、齋藤副会長、県内商工会議所会頭・専務理事、橋本専務理事ほか

要 望 先：地元選出国會議員

復興庁 藤原大臣政務官 文部科学省 村田研究振興局長

中小企業庁 鎌田次長

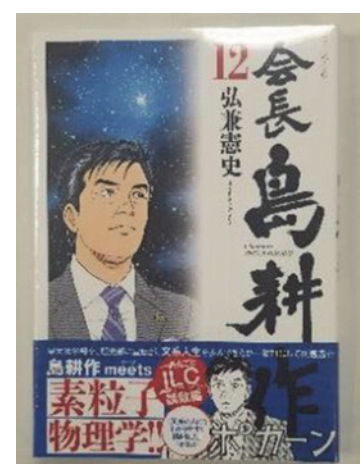
・ 東日本大震災津波被害からの本格復興と、その先を見据えた岩手県経済の再生に向けた復興
要望と ILC の早期実現要望を行った。

⑩「会長 島 耕作」第 12 巻（ILC 誘致編）による理解促進

ILC100 人委員会メンバーである弘兼 憲史氏著作 週間漫画誌
「モーニング：『会長島 耕作』」1 月～5 月まで掲載された作品を
収録した単行本（ILC 誘致編）が 9 月 20 日に発刊された。

当推進協議会として周知活動のために 300 冊を購入。

国民の理解のため非常に分かりやすい内容であり、谷村会長は
政府関係者、経済団体など要人に対して機会がある度に配布し、
ILC 計画への理解の促進と支援を要請した。



©弘兼憲史／講談社

⑪西村経済再生担当大臣と東北の経済団体との意見交換会（東北経 済連合会主催）

令和元年 9 月 26 日（木）／於：仙台市セントレ東北

出席者：谷村会長

- ・西村経済再生担当大臣との意見交換会に出席し、谷村会長は、ILC 誘致実現に向けた取組みについて説明、支援を依頼した。

⑫谷村会長と山下東京大学特任教授の打合せ

令和元年 11 月 16 日（土）／於：ホテルメトロポリタン盛岡 4 階

- ・今後のスケジュールについて、海外の動向、LCWS2019 仙台の状況などについて説明を受け、今後の ILC の推進活動について情報を共有した。

⑬東北 ILC 推進協議会：科学技術イノベーション創出による東日本大震災から未来に向けた、創造的復興に関する緊急要望

令和元年 11 月 29 日（金）／於：復興庁、自民党本部

要 望 先：田中復興大臣

要 望 者：東北 ILC 推進協議会 高橋共同代表、
鈴木学長、齋藤理事、宇部代表補佐ほか

- ・「復興・創生期間」後における東日本大震災から復興の基本方針を策定している復興庁田中復興大臣に対して、緊急要望を実施した。

- ・当日は鈴木自民党総務会長、ILC 国会議員連盟河村会長を訪問し、復興庁への要望の報告と更なる支援を依頼した。



田中復興大臣への要望

⑭日本商工会議所・日本経済団体連合会、日本経済同友会との面談

令和元年 12 月 24 日（火）／於：日本商工会議所、経団連会館、経済同友会事務所

面談者：山下特任教授、松岡 AAA 事務局長、大平理事、佐藤東経連東京事務所長、
猿川事務局長

- 応対者：日商：五十嵐地域振興部長ほか、経団連：吉村産業技術本部長、同友会：齋藤執行役
- ・LCWS2019 仙台開催概況、ILC プロジェクト動画の制作、「地球村創生ビジョン」の策定状況など ILC 実現にむけた取組状況と今後の国内外の重要な日程を説明し、情報を共有した。

⑮日本商工会議所・日本経済団体連合会、日本経済同友会との面談

令和 2 年 1 月 31 日（金）／於：日本商工会議所、経団連会館、経済同友会事務所

面談者：松岡 AAA 事務局長、岩手県大平理事、猿川事務局長

- 応対者：日商：五十嵐地域振興部長ほか、経団連：吉村産業技術本部長、同友会：齋藤執行役
- ・日本学術会議マスタープランの結果、国際協議の進展状況、国際シンポジウムの開催、「地球村創生ビジョン」策定など ILC の進捗状況を説明、情報を共有した。

⑯鈴木俊一自民党総務会長との面談

令和 2 年 2 月 4 日（火）／於：自民党本部総務会長室

出席者：谷村会長、山下特任教授、佐々木局長

- ・ILC 誘致実現に向けた国内外の状況について山下特任教授が説明し、谷村会長から自由民主党岩手県連合会政経懇談会等において、鈴木会長から ILC の国内外の状況の周知を依頼した。

⑰岸田文雄自民党政務調査会長への挨拶

令和2年2月9日（日）／於：盛岡グランドホテル

出席者：谷村会長

- ・自民党岩手県連合会政経懇談会に出席のため来県された岸田政調会長に対し、ILC誘致実現に向けた熱意を伝えるとともに早期実現への支援を依頼した。

⑱谷村会長と山下東京大学特任教授の打合せ

令和2年3月19日（木）／於：岩手県庁 ILC 推進局長室

同席：佐々木局長、大平理事、高橋副局長ほか

- ・ICFA/LCB 会議や萩生田文科大臣等の国会における発言内容、KEK などの国内外の研究者の動向など、ILC の最新の状況について説明を受け、情報を共有した。

（３）国内・外への ILC 実現にむけた活動

ア．国内PRの強化

①ILC 推進連絡会による活動：ILC 推進団体の連携

ILC 推進連絡会は、ILC の連携推進体制の強化のため、研究者、KEK、AAA、岩手県 ILC 推進局、東北 ILC 推進協議会、岩手県 ILC 推進協議会で組織され、国内外の推進状況の情報共有と ILC 国会議員連盟の活動や要望活動、オールジャパン体制での広報活動などを行った。

連絡会は、6 月以降、東京にて月 2 回開催：於 三菱重工会議室：ネット会議

ILC 推進連絡会は、ILC プロジェクト動画の制作、国際シンポジウムの開催、ILC サポートーズの活動再開など国内外の PR 活動にも積極的に取り組んだ。

○ILC プロジェクト動画の制作

国民への理解の促進と関係省庁や ILC 国会議員連盟・自民党 ILC 誘致実現連絡協議会、関係省庁、メディア等に対し、ILC 計画への理解を深める説明資料として、研究者、KEK、AAA、東北 ILC 準備室、岩手県 ILC 推進局、当推進協議会が連携して ILC プロジェクト動画を制作した。

1 月 31 日から AAA、KEK のホームページ等で国内外に発信し、当推進協議会のホームページからも視聴できる。

ILC プロジェクト動画では、谷村会長が候補地を代表して、次世代の子供たちに夢と希望を与え、ILC は誰もが挑戦できる千載一遇のチャンスと地域における ILC への期待についてコメントしている。

制作は（一社）先端加速器科学技術推進協議会（AAA）。

当推進協議会は、岩手県 ILC 推進局と連携して ILC プロジェクト動画の編集に主体的に取り組むとともに、DVD（500 枚）の制作費用等を負担した。

制作された DVD は、ILC 国会議員連盟や各省庁、経済団体、100 人委員会、ILC サポートーズ等に配布した。

タイトル 「日本が変わる、世界を変える 国際リニアコライダー（ILC）」

～世界をリードする科学と社会の国際モデルを目指して～

フルバージョン（25 分）とショートバージョン（5 分）の 2 種類

内 容 1. 素粒子の起源 2. ILC とは 3. ILC 計画の歩み 4. 社会のビッグバン
5. 技術のビッグバン 6. 世界から集まる期待 7. 進む ILC の準備活動

8. ノーベル賞受賞者からのメッセージ

視聴回数 フルバージョン 865 回 ショートバージョン 1,059 回 （令和2年3月31日現在）

○ILC 推進国際シンポジウム「ピーター・ヒッグス氏が語る ヒッグス粒子と ILC」

令和2年2月8日（土）／於：東京大学伊藤国際学術センター伊藤謝恩ホール

主催：高エネルギー加速器研究機構（KEK）

共催：東京大学ほか関連大学等、LCC、AAA、東北 ILC 推進協議会ほか

講師：ピーター・ヒッグス博士（2013 年ノーベル物理学賞：ビデオ出演）

小林 誠博士（2008 年ノーベル物理学賞）

益川 敏英博士（2008 年ノーベル物理学賞：ビデオ出演）

駒宮 幸男 氏（早稲田大学理工学術院総合研究所 教授）

村山 斉 氏（LCC 副ディレクター、カリフォルニア大学バークレー校 教授）

来場者数：約 600 名

参加者：齋藤理事、橋本専務理事、廣田理事

サテライト会場：岩手大学、広島大学、九州大学

岩手大学会場には、盛岡一高、盛岡三高、岩手大学学生が参加。

[国際シンポジウム概要]

・ヒッグス粒子の存在を予言してノーベル賞を受賞した、英エジンバラ大学名誉教授のヒッグス博士が、当初はスイスの CERN からリモート参加する予定だったが、都合により事前録画したビデオ映像による参加となった。

・小林博士（KEK 特別栄誉教授）が素粒子の発見から標準理論ができるまでの素粒子物理学の歴史を振り返ったうえで「まだ、さまざまな未解決の問題がある」と指摘。

・村山教授が「宇宙はどうやって始まったのか」という疑問から ILC 計画の必要性を解説、科学で世界平和をリードできる ILC を日本に誘致すべきと強調。

・小林博士、村山教授、駒宮教授がパネルディスカッションを行い、小林博士と同時にノーベル賞を受賞した名古屋大学の益川博士もビデオメッセージを寄せた。

・ヒッグス博士の講演では、ILC について「早期に建設する必要がある。経済的な負担となるかもしれないが、経済にもたらす影響はそうした負担を越えるものだ」と強調。その後、「研究を始めたきっかけは何か」「ヒッグス粒子の提唱から発見までに 50 年もかかったが、どういう気持ちでいたのか」などというサテライト会場の若者たちの質問に、一つひとつ丁寧にお答えいただいた。

○「ILC サポーターズ」の活動再開と支援

2018 年 4 月、映画監督・押井守氏の呼びかけによって映画業界・出版業界を中心に広まり、有志によって ILC の誘致実現をするための応援組織『ILC サポーターズ』が発足し、3 月まで活動を展開した。ILC サポーターズ活動の再開を支援するためサポーターズ幹部と ILC 推進団体との打合せを行い、10 月に開催の決起集会から活動を再開した。

・ ILC Supporters2019 決起集会

日 時 令和元年 10 月 15 日（火） 15：30～17：20

場 所 東京大学福武ラーニングシアター

参加者 150 名

内 容 押井守監督ほかによるスペシャルクロストーク、スペシャルムービーの上映等

・ ILC サポーターズは、11 月から 2 月にかけて計 9 回、「未来会議」として著名人が未来について語るイベント等を実施。これを収録してホームページや SNS 等を活用して全国に拡散するなどの広報活動を展開した。



令和 2 年 2 月 11 日、花巻市で開催の「わんこそば全日本大会」では、押井監督のトークショー、わんこそば大会に参加した押井監督が TV で放映され、当日の SNS ヤフートレンドランキングで 3 位になるなど、全国にその活動を広めた。

年度内最終イベントは建築家 隈 研吾氏、経済評論家 岸 博幸氏を招いて、押井監督とのトークシンポジウムを秋葉原 UDX での開催を企画したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。両氏と押井監督、山下先生との鼎談が収録され、ホームページで 5 月に公開されている。

わんこそば大会の収録のほかイベント開催、収録、ホームページによる PR 費用など AAA を通じて ILC サポーターズの活動を支援した。

イ. 海外への情報発信強化

①LCWS2019 仙台の開催支援

日 時 令和元年 10 月 28 日（月）～11 月 1 日（金）

会 場 仙台国際センターほか

主 催 リニアコライダー・コラボレーション（代表 リン・エヴァンス）

概 要 ・世界トップレベルの ILC 研究者が一堂に会する国際会議（LCWS：リニアコライダーワークショップ）が仙台国際センターで開催（日本では 3 年前に盛岡市で開催）。研究者等約 400 名が参加。ILC 計画を推進する「仙台宣言」が発表された。

・ LCWS2019 仙台の開催のため、ローカル・オーガナイズ・コミッティ・アドバイザリー・ボードのメンバーに谷村会長が就任。ローカル・オーガナイズ・コミッティ（LOC）会議に事務局が参画し、企業セッション・展示などの準備にあたった。

○企業展示

日 時 令和元年 10 月 28 日（月）～29 日（火）

場 所 仙台国際センター：展示棟

参加者 国内外 55 社ブース、岩手県、東北 ILC 推進協議会、宮城県、仙台市、岩手県南・宮城県北自治体の 8 ブース

・ 岩手県ブースは、ILC 推進モデル校紹介パネル展示や地元の情報を展示。「ILC 手ぬぐい」を 500 枚制作し、国内外の研究者等に配布したほか、ILC のロゴ入りりんご等を提供するなど岩手県 ILC 推進局と対応した。



岩手県ブースの展示

○LCWS2019 ウェルカムレセプション

日 時 令和元年 10 月 28 日（月）18：30～

場 所 仙台国際センター「展示室 2」

参加者 約 400 名

齋藤副会長、廣田理事

○LCWS2019 バンケット

日 時 令和元年 10 月 30 日（水）19：00～

場 所 仙台市：勝山館

参加者 約 400 名

達増知事、鈴木学長、谷村会長、猿川事務局長



バンケットで登壇した谷村会長ほか

②ドイツ：DESY クラウス博士ほか 4 名の研究者来県に伴う対応

○夕食懇談会

日 時 令和元年 10 月 29 日（火）17：30～

場 所 ホテルメトロポリタン盛岡本館「JUEIN」

参加者 齋藤副会長、小山田理事、橋本専務理事ほか

- ・ LCWS2019 に参加したクラウス博士ほか 4 名が来県。7 月の DESY・CERN 視察の際の協力へのお礼と今後の ILC 実現に向けて、受け入れ態勢の整備等地元の熱意を伝え、情報交換を行った。

③フランス国民議会ベシュト議員（アルザス・欧州日本学研究所所長）来県に伴う対応

○昼食懇談会

日 時 令和元年 11 月 4 日（月）11：45～

場 所 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング「対い鶴」

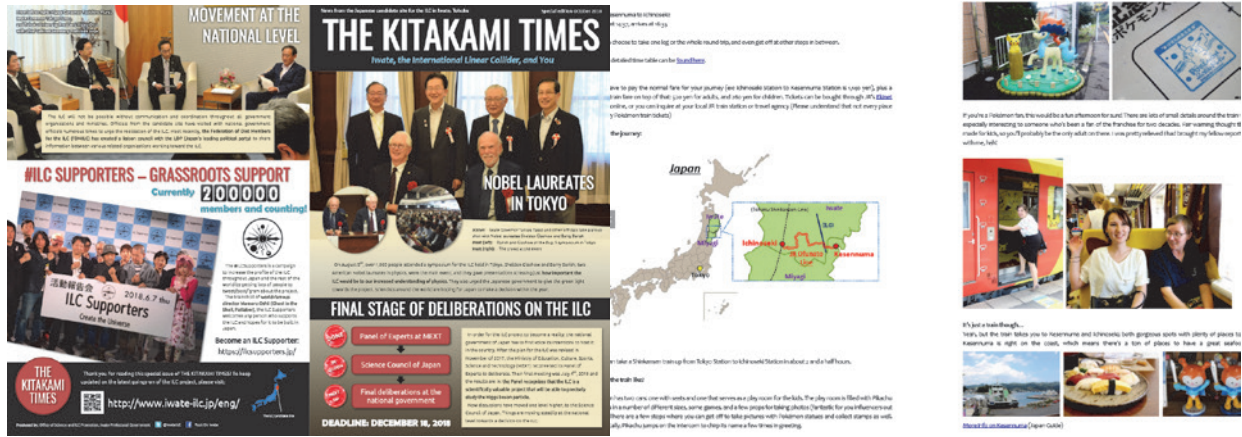
参加者 達増知事、千葉副知事、谷村会長、齋藤理事、鈴木学長、平野岩手アルザス交流委員会会長ほか

- ・ 日欧の地域間協力を促進するために来県したベシュト議員と今後の ILC 実現に向けて、情報交換を行った。ベシュト議員は、県立美術館なども視察。

④ILC 英語版広報誌「THE KITAKAMI TIMES」の発刊（当協議会 WEB 内）

海外の研究者等へ ILC の候補地である北上サイトや岩手県内の観光やイベント情報、ILC 実現に向けた地域の取組等を英語版の広報紙としてウェブ上に掲載し、北上サイトに対する理解や機運醸成につなげている。

（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日まで、延べ 31 回発刊）



⑤海外での活動支援

ILC 国会議員連盟河村会長、塩谷幹事長、伊藤信太郎衆議院議員、文部科学省、山内 KEK 機構長ほか研究者、AAA が 7 月 1 日～2 日に訪欧した。

日独、日仏間の政府間協議の場（ディスカッション・グループ）の設置について合意され、10 月には日独協議、11 月に英国との協議、2 月には日独仏英の 4 カ国協議が開催された。

また、2 月 20 日から米国 SLAC 研究所で ICFA/LCB 会議が開かれ、ILC 国会議員連盟河村会長、文科省増子審議官が出席し、3 月 7 日の政府の関心表明以降の取組や考え方を説明した。

当推進協議会は、AAA を通じて日米・日欧の国際交渉を支援した。

また、12 月に東京で開催された欧州素粒子物理戦略策定に係るワーキング会議に日本高エネルギー物理学研究者会議 森 俊則 高エネルギー委員長が出席し、ILC の取組に関する資料を提出するとともに、東北の受入れ態勢整備状況についての資料提供を行った。

ウ. 普及啓発活動 - ①公開講演会等

①ILC 公開講演会

- ・日本学術会議マスタープランの審議が終了し、2 月 20 日開催の国際会議 ICFA/LCB における政府からの新たな表明や ICFA からのステートメント、（一財）国土計画協会が策定した ILC を契機とした地方創生「地球村創生ビジョン」の内容についての周知を目的に公開講演会を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響に鑑み、延期した。

令和 2 年 3 月 9 日（月）15：00～17：00/於：盛岡グランドホテル

第 1 部 講演

「ILC 実現にむけた日本の研究者の取組み」

講師：高エネルギー物理学研究者会議 高エネルギー委員長
東京大学 教授 森 俊則 氏

「ILC 計画の推進状況について」

講師：東京大学 特任教授 山下 了 氏

第 2 部 講演

「ILC、地方創生を超えて、地球貢献へ」

講師：(株)東急総合研究所 元国土交通省国土政策局長
顧問 藤井 健 氏

ウ. 普及啓発活動 ― ②学生向け講演会

①齋藤武彦教授による被災地を中心として科学特別授業に対する支援

令和元年 10 月 26 日（土）～29 日（火）

- ・盛岡市、大船渡市、宮古市、大槌町、釜石市
- ・小、中、高校など 6 講座

ウ. 普及啓発活動 ― ③その他（後援・協力等）

①「ニコニコ超会議」岩手県ブース内での ILC 関連 P R

平成 31 年 4 月 27 日（土）～28 日（日）／於：幕張メッセ（千葉県）

主催：ニコニコ超会議 実行委員会／来場者数 17 万人（延べ）

内容：会場（岩手県ブース）でのクライオモジュール特大ポスター展示や紹介動画によって ILC 広報活動を実施。

②盛岡市 ILC セミナー「ILC で世界につながるまち盛岡市民大会」

令和元年 7 月 25 日（木）15:00～17:15／於：アイーナ「小田島組ほ～る」

主催：盛岡市

講演：「ILC 計画の現状と盛岡市の役割」

講師：佐々木 淳 氏（岩手県理事兼政策地域部 ILC 推進室長）

パネルディスカッション

コーディネーター 石橋 敬太郎 氏（岩手県立大学 教授）

パネリスト

ゴンザレス・カルロス・ハビエル 氏（盛岡国際交流協会登録ボランティア）

大櫻 薫 氏（盛岡観光コンベンション協会）

伊藤 淳之助 氏（盛岡青年会議所）

③みんなで学ぼう！ILC～国際リニアコライダー～（イオンモール盛岡南等と共催）

令和元年 7 月 27 日（土）～28 日（日）／於：イオンモール盛岡南

「岩手大学理工学部工学ガールズと一緒に理科実験をしよう」

「岩手県立大学（製作）：ILC-VR で ILC を実際に見てみよう」

ILC パネル・ジオラマ展示、ILC フォトスポット展示等を行った。

④いわてサイエンスシンポジウム 2019 in 宮古

令和元年 8 月 4 日（月）10:00～16:00／於：宮古港フェリーターミナル

主催：いわてサイエンスシンポジウム実行委員会

内容：超伝導加速器空洞大型ポスター展示、ILC-VR 体験、ジオラマ、ILC リーフレット・漫画による普及啓発を行った。

⑤花巻市「ILC 市民セミナー」

令和元年 8 月 5 日（月）15:00～16:30／於：ホテルグランシェール花巻

主催：花巻市、花巻商工会議所

講演：「ILC の最新の動向について」

講師：佐々木 淳 氏（岩手県 ILC 推進局長）

⑥いわてサイエンスシンポジウム 2019 in 盛岡

令和元年 8 月 10 日（土）10：00～16：00／

於：いわて県民情報交流センター（アイーナ）

主催：いわてサイエンスシンポジウム実行委員会

内容：岩手県 ILC 推進局とともに ILC の PR ブースを運営。

超伝導加速器空洞大型ポスター展示、

ILC-VR 体験、ペーパークラフト、ジオラマ、

ILC リーフレット・漫画による普及啓発を行った。



⑦大船渡市「ILC 講演会」

令和元年 8 月 21 日（水）13：30～15：40／於：大船渡市民文化会館リアスホール

主催：大船渡市

講演：「ILC 計画に関する最新の動向について」

講師：山下 了 氏（東京大学 特任教授）

講演：「ILC を契機とした地域振興について」

講師：佐々木 淳 氏（岩手県 ILC 推進局長）

⑧全国地ビールフェスティバル in 一関 ILC 特別展

令和元年 8 月 24 日（土）～25 日（日）／於：一関市立図書館ほか

主催：一関市

- ・ ILC 特別展（パネルの展示）
- ・ ふじポンとサクラ凜さんとの撮影会
- ・ ILC サポートズ外務省「カワイイ大使 木村 優さん」との撮影会

⑨グリーン ILC セミナー

令和元年 8 月 30 日（金）14:30～17:10／於：二戸市シビックセンター

主催：岩手県

講演：「ILC の動向とグリーン ILC の取組」

講師：吉岡 正和 氏（岩手大学・岩手県立大学 客員教授）

講演：「木質バイオマスの本格的な普及拡大に向けて」

講師：梶山 恵司 氏（バイオエナジー・リサーチ&インベストメント株式会社 代表取締役）

講演：「川上と川中をつなぐ」

講師：鈴木 信哉 氏（ノースジャパン素材流通協同組合 理事長）

講演：「国産材漆を取り巻く状況変化と展望について」

講師：福田 達胤 氏（株式会社小西美術工芸社 二戸支社長）

⑩KEK 一般公開デー2019 ～加速する宇宙・物質・生命の謎～

令和元年 9 月 1 日（日）／於：高エネルギー加速器研究機構 研究本館（茨城県）

内容：岩手県ブースでは、ILC パンフレットの配布や ILC-VR の体験コーナーを設置して地元
の取組を紹介。

KEK の展示では、ILC が挑戦する宇宙の謎について、子ども向けに輪投げやボールすく
いを通じ、楽しみながら学ぶことができる体験型ゲーム「ILC 縁日」を実施。

⑪「VACUUM2019 真空展」特別展示 国際リニアコライダー計画展

令和元年 9 月 4 日（水）～6 日（金）／於：パシフィコ横浜（神奈川県）

主催：日本真空工業会、日本表面真空学会、日刊工業新聞社

来場者数：延べ 10,815 名

内容：岩手県・関係自治体、関連機関と連携して実施。

超伝導加速器空洞大型ポスター展示、ILC-VR 体験コーナー、 ILC リーフレット・漫画
による PR とともに、会場内展示ホールで行われたハッピーアワー（交流会）において
北上サイト周辺自治体の PR を行った。

同時開催：2019 洗浄総合展（25,050 名）、先端材料技術展（12,041 名）、高精度・難加工技術
展 2019（10,924 名）

講演会：「ILC の概要とそのインパクト」

（アジア初の国際機関の意義とその巨大な
波及効果）

講 師：吉岡 正和 氏

（岩手大学・岩手県立大学 客員教授）



真空展特別展示コーナー

⑫ ILC 講演会

令和元年 11 月 1 日（金）／於：仙台国際センター大会議室

主催：東北 ILC 推進協議会

講 演：「ILC を取り巻く国内の動き」

講 師：山内 正則 氏（高エネルギー加速器研究機構 機構長）

講 演：「ILC への海外からの期待」

講 師：ジェフリー・テイラー 氏（国際将来加速器委員会：ICFA 議長）

参加者：約 220 名

⑬ グリーン ILC セミナー

令和 2 年 3 月 10 日（火）14:30～17:10／於：住田町

主催：岩手県

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期。

⑭「サイエンス × ハローキティ・プロジェクト」との連携

AAA と連携し、ILC を幅広く知って頂くため「サイエンス×ハローキティ」プロジェクトを支
援。当協議会会員事業所にて販売したほか、ILC 関連イベント等の会場において販売を行った。

エ. 岩手県 ILC 連携室オープンラボ活用支援

- ・平成 30 年 4 月、ILC の中核部品であるクライオモジュール実機の展示や ILC の関連情報を集約して、ILC への参入を目指すものづくり事業者や興味を持つ児童、学生など誰もが学習・研究できる拠点として岩手県先端科学技術研究センター内に開設。

見学者 38 団体 1,863 名 (3 月 31 日時点)



オ. 各種刊行物等への寄稿等

- ・「岩手経済研究」11 月号寄稿
- ・IBC 岩手放送「東北と世界がつながる ILC～高まる建設実現への期待～」令和元年 11 月 23 日放映
- ・IBC 岩手放送「ILC＝国際リニアコライダー誘致の行方」令和 2 年 3 月 22 日放映

(4) 調査・研究活動

ア. DESY (ドイツ・ハンブルク)・CERN (スイス・ジュネーブ) 視察

令和元年 7 月 15 日 (月)～20 日 (土)

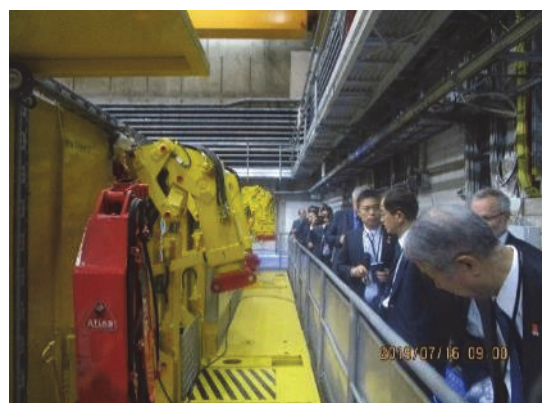
目的：3 月 7 日、日本政府による ILC に関する関心表明を受け、政府、ILC 国会議員連盟の訪欧 (7 月 1 日～3 日) に引き続き、地元の受入れ環境整備が順調に進んでいることを欧州の研究者に伝えるとともに、ILC のイノベーション創出に資するため、CERN から生み出される技術移転を行っている機関 (CERN ナレッジ・トランスファー) 及び立地企業を視察。

参加者 保副知事、白水政策地域部長、齋藤副会長、
小山田理事、橋本専務理事ほか 12 名

概要

DESY (ドイツ・ハンブルク)

- ・DESY 要人とのディスカッション
- ・産業振興の取組についてのディスカッション
- ・HERA トンネル、XFEL 視察



CERN（スイス・ジュネーブ）

- ・ナレッジ・トランスファーの取組紹介
- ・スピンオフカンパニーの取組紹介、関係者等へ
岩手県を取組をプレゼンテーション
- ・リン・エヴァンス LCG 代表との懇談
- ・エルゼン CERN 副所長とのディスカッション



イ. ILC に関連する加速器関連産業への理解と参入機会の創出

■岩手県、いわて加速器関連産業研究会、東北 ILC 準備室と連携したセミナー

①第1回 ILC 技術セミナー（後援）

令和元年6月6日（木）14:30～／於：アートホテル盛岡

主催：いわて加速器関連産業研究会・東北 ILC 準備室（以下略）

内容：・ILC 誘致に関する最近の動向について

鈴木 厚人 氏（岩手県立大学 学長）

- ・ILC とコストダウン R&D の最新状況

道園 真一郎 氏（高エネルギー加速器研究機構 応用超伝導加速器センター長）

- ・先端技術分野での起業と加速器の医療、産業への応用

田辺 英二 氏（㈱エーイーティー 代表取締役社長）

②第2回 ILC 技術セミナー（後援）

令和元年7月11日（木）13:30～／於：岩手県工業技術センター 大ホール

内容：・ILC イントロダクション

早野 仁司 氏（高エネルギー加速器研究機構 特別教授）

- ・高エネルギー加速器の真空システム～Super KEKB の真空技術～

末次 祐介 氏（高エネルギー加速器研究機構 教授）

- ・放射光の基礎とビームライン技術

近藤 裕司 氏（秋田県産業技術センター電子光応開発部 主任研究員）

- ・KAGRA の製造過程と ILC 空洞製造の取組み

中村 哲朗 氏（㈱ミラプロ 先端機器超高真空事業部）

③第3回 ILC 技術セミナー（後援）

令和元年9月19日（木）13:30～／於：岩手県工業技術センター 大ホール

内容：・ILC イントロダクション

照沼 信浩 氏（高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 教授）

- ・Super KEKB のビームモニター技術

飛山 真理 氏（高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 教授）

- ・CosyLab の加速器制御技術

内田 和秀 氏（CosyLab Japan(株) 制御システムエンジニア）

④第4回 ILC 技術セミナー（後援）

令和元年12月5日（木）13:30～／於：岩手県工業技術センター 大ホール

内容：・超伝導加速空洞の表面技術

許斐 太郎 氏（高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設 助教）

・超伝導加速空洞の製造技術

渡邊 勇一 氏（高エネルギー加速器研究機構機械工学センター 技師）

・金属技研の熱処理技術

石崎 博之 氏（金属技研株式会社茨城工場技術課 係長）

⑤第5回 ILC 技術セミナー（後援）

令和2年2月18日（木）13:30～／於：マリオス18階188会議室

・ILC イントロダクション

早野 仁司 氏（高エネルギー加速器研究機構 特別教授）

・ILC のビーム光学系の設計

奥木 敏行 氏（高エネルギー加速器研究機構 准教授）

・ILC 加速器コンポーネントアライメント技術

荒木 栄 氏（高エネルギー加速器研究機構 専門技師）

・Ninja カソードを用いたニオブ加速空洞の縦型電解研磨技術の開発

仁井 啓介 氏（マルイ鍍金工業(株)技術部）

・秋田県高エネルギー加速器技術研究会の紹介

近藤 祐治 氏（秋田県産業技術センター）

ウ. 東北 ILC 準備室の活動

○ILC を契機とした地方創生ビジョンの策定

一般財団法人国土計画協会は、今後の国土政策を展望するにあたって、地球温暖化をはじめ、国境を超えて地球規模で取り組まなければならない課題に対し、我が国がどのような役割を果たしていくべきか、という視点が欠かせないことから、人と自然が共生する社会など日本の強みを生かしながら世界の新たなモデルとなる地域の創生を提言するビジョンを策定することを目的として「地球村ビジョン策定委員会」を設置し、日本の使命、責務を果たし、人類が共に手を携えて地球的課題に挑戦する地球村の創生を目指すことを国内外に提言した。

地球村の目指す3つの理念は、

①世界の人々と融合して挑戦

②次世代へ夢と希望を与え、人類の進歩に貢献

③世界の多様な人材を集積、人間主体のイノベーションを創発

地球村創生に向けた基本的考え方を整理し、地球村創生に向けた取組の方向と考えられる施策の例を示した。

さらに ILC 計画を地球村の核となるプロジェクトとして取り上げ《ILC を契機とした地球村創生編》として ILC 地球村の目指す姿、ILC 地球村創生の取組の方向などをまとめた。

地球村ビジョン策定委員会

委員長 伊藤 滋 一般財団法人国土計画協会 会長

委 員 内館 牧子 脚本家、作家

大滝 精一 学校法人至善館 理事

寺島 実郎 一般財団法人日本総合研究所 会長
藤井 健 株式会社東急総合研究所 顧問
座 長 増田 寛也 株式会社野村総合研究所 顧問

策定に当たって岩手県 ILC 推進局・AAA・東北 ILC 準備室、当推進協議会が協力。

報告書は 3 月 15 日（日）国土計画協会ホームページで公開され、3 月 17 日（火）発刊の国土計画協会機関誌「人と国土 21」で発表された。

○東北としての ILC 設計の推進

平成 25 年技術設計書が公開され、その後、KEK が中核となり、研究者の国際共同作業により進められ、ILC 設備の仕様や施設等の概要が概ね確定したことにより、東北 ILC 準備室は KEK と共に建設候補地の固有条件を反映した東北版 ILC 施設計画を策定した。ILC 施設は大規模な地下工事を伴うことから、策定された東北版 ILC 施設計画の岩盤力学・工学的な視点から技術的成立性についての評価を東北 ILC 準備室が公益社団法人土木学会岩盤力学委員会に委託した。

岩盤力学委員会は、オールジャパン体制で「ILC 施設計画評価小委員会」（委員長 大西 有三 京都大学名誉教授、幹事長 京谷 孝史 東北大学教授、幹事 2 名、委員 14 名）を設置し、5 回の評価小委員会と現地視察を行い、報告書を取りまとめた。

評価結果は、土木学会ホームページで公開され、『「東北 ILC 施設計画」は技術的成立性を担保しているものと評価、その内容は妥当である』と結論づけた。

○ILC 解説セミナー（地元説明会）の開催

東北準備室では KEK と連携し、ILC に関する最新動向や住民の ILC に関する関心事項について解説するためのセミナーを 8 回開催した。それぞれのセミナーでいただいた質問は、東北 ILC 推進協議会のホームページで回答を公開するとともに、様々な疑問にわかりやすく答えるため「よくある質問と回答（Q&A）」の形式でまとめた ILC ガイドラインシリーズ 6「ILC の安全管理」の作成に取り組んだ。

ILC 解説セミナー（地元説明会）

- (1) 日 時 令和元年 10 月 5 日（土）
場 所 ①奥州市前沢ふれあいセンター 10：00～11：30
②一関市川崎農村環境改善センター 14：30～16：00
- (2) 日 時 令和元年 12 月 22 日（日）
場 所 ①大船渡市シーパル大船渡 10：30～12：00
②一関市室根曲ろくふれあいセンター 14：30～16：00
- (3) 日 時 令和 2 年 1 月 19 日（日）
場 所 ①一関市東山地域交流センター 10：30～12：00
②奥州市水沢地区センター 14：30～16：00
- (4) 日 時 令和 2 年 2 月 2 日（日）
場 所 ①一関市奥玉市民センター 10：00～11：30
②盛岡市上田公民館 14：30～16：00

(5) 広報活動

① 「ILC 誘致実現支援自動販売機」の継続設置

みちのくコカ・コーラボトリング(株)様のご協力を得て、売上の一部が ILC の誘致実現の活動（当協議会の活動等）に寄付される自動販売機を県内 3 か所に継続して設置している。



盛岡市（マリオス 3F）



奥州市（ダイコー壱番館）

②PR 用うちわの作成・配布

今年度は「会長 島耕作」のデザインを活用し、うちわ 21,000 本を作成。「盛岡さんさ踊り」や ILC イベント等にて配布した。



③PR 年賀状の作成

岩手県印刷工業組合・盛岡広域振興局・盛岡中央郵便局と協力し、20,000 枚を印刷・販売した。



④周知用ポスター、地形ジオラマの展示・貸出

これまでに作成した広報用ツールを活用し、各種イベント等に出展等を実施。(VACUUM2019 真空展等)

※地形ジオラマは岩手 ILC 連携室「オープンラボ」内に展示中



⑤イメージキャラクター「ILC そばっち」の活用

ILC への親しみやすさや岩手県が候補地であることのイメージを醸成するため、平成 27 年度に作成。当推進協議会員等関係機関において広報物(名刺)等にご利用されている。

提供数：8 件(平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月 31 日)



⑥ILC リーフレット改訂版の作成

ILC リーフレットの改訂版を岩手県 ILC 推進局と 1 万部作成。見開きリーフレットから冊子型に変更し、ILC がもたらす地域への社会的意義の項目である ILC による地域振興を『国際研究拠点の実現』として、○イノベーションの創出 ○グリーン ILC によるエコ社会の実践 ○ILC を活用した交流人口の拡大、科学技術教育水準の向上 ○国際性豊かで便利な暮らしやすいコミュニティの形成について、イラスト等を活用して解説し、より理解しやすい内容に変更した。今後、各種のイベントなどで ILC 計画の普及・啓発活動に活用していく。

(6) 組織強化活動

ア. 会員増強

- ・法人・団体会員 11 会員の減(新規加入 0)、個人会員 5 会員の減(新規加入 0)、全体で 16 会員の減。会員状況については別掲。
- ・会員への情報発信
 - 日本学術会議マスタープランが 1 月 30 日 15 時からホームページで公表されることから、1 月 28 日にその周知と ICFA/LCB 会議や欧州素粒子物理戦略の策定など 5 月までの ILC に関連する主な日程について会員に対し、周知を行った。
 - 新型コロナウイルス感染拡大防止のため 3 月 9 日開催の公開講演会を延期とするお知らせとともに、2 月 20 日から開催された ICFA/LCB 会議において、文部科学省増子審議官、河村 ILC 国会議員連盟会長が日本の取組状況を説明し、ICFA から日本に ILC がタイムリーに建設され

ることを望むとの声明文を会員に対し周知した。

イ. 産・学・官・関係機関との連携

■先端加速器科学技術推進協議会（AAA）との連携

①総 会

令和元年 6 月 24 日（月）／於：帝国ホテル

…谷村会長

議事 平成 30 年度事業報告・決算、令和元年度事業計画・予算等について
・役員の選任が行われ、谷村会長が AAA の理事に就任した。

②理事会

第 29 回理事会 令和元年 8 月 30 日（金）／書面決議

議事 新規加入の件

第 30 回理事会 令和元年 10 月 11 日（金）／書面決議

議事 新規加入の件

第 31 回理事会 令和元年 12 月 20 日（金）／書面決議

議事 新規加入の件

第 32 回理事会 令和 2 年 1 月 24 日（金）／書面決議

議事 新規加入の件

第 33 回理事会 令和 2 年 3 月 6 日（金）／書面決議

議事 新規加入の件

第 34 回理事会 令和 2 年 3 月 27 日（金）／書面決議

議事 新規加入の件

■東北 ILC 推進協議会との連携

①幹事会

第 1 回 令和元年 6 月 11 日（火）／於：セントレ東北（事務局）

議事（1）令和元年度総会等の議事（案）について

②総 会

令和元年 7 月 1 日（月）／於：ウェスティンホテル仙台

…谷村会長、齋藤副会長、橋本専務理事、廣田理事

議事 平成 30 年度事業報告・決算について

規約の改正について

令和元年度事業計画・予算について

国際リニアコライダーの日本誘致に関する決議について

ビデオメッセージ

山内 正則 氏 高エネルギー加速器研究機構 機構長

講演 「ILC と地方創生」

増田 寛也 氏 東京大学公共政策大学院 客員教授

③拡大幹事会

- 第1回 令和元年7月24日（水）／於：セントレ東北（事務局）
協議（1）ILCの最新状況について（山下特任教授）
- 第2回 令和元年10月17日（木）／於：セントレ東北（事務局）
協議（1）ILCの最新状況について（山下特任教授）
（2）上期事業報告・予算執行状況について
（3）LCWS準備状況について
（4）各機関の活動状況について
- 第3回 令和2年3月16日（月）は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

④記者説明会

- 第1回 令和元年7月24日（水）／於：セントレ東北
鈴木厚人東北 ILC 準備室長、山下 了同フェロー
- 第2回 令和元年10月17日（木）／於：セントレ東北
鈴木厚人東北 ILC 準備室長、山下 了同フェロー、山本 均同フェロー

⑤岩手県南・宮城県北 ILC 推進団体連絡会議

岩手県南および宮城県北において、ILC 誘致活動に積極的に取り組んでいる当該地域の ILC 推進団体および関係自治体の相互交流を図るための組織として、「岩手県南・宮城県北 ILC 推進団体連絡会議」が新たに設置された。今後、当推進協議会との連携も考えられる。

構成団体：大船渡市 ILC 推進協議会、ILC 実現を熱望する住民の会、奥州市 ILC 推進連絡協議会、気仙地区商工団体連絡会、陸前高田市 ILC 誘致促進協議会、栗原市 ILC 誘致推進協議会、登米市国際リニアコライダー誘致推進協議会、気仙沼市国際リニアコライダー推進協議会、東北 ILC 推進協議会

■いわてサイエンスシンポジウム 2019 実行委員会との連携

①ワーキンググループ会議

- 令和元年5月17日（金）／於：岩手県公会堂（事務局）
概要 規約改正、役員選任、事業計画・収支予算（案）等について

②第1回実行委員会

- 令和元年5月31日（金）／於：盛岡市民文化ホール（事務局）
概要 規約改正、役員選任、事業計画・収支予算（案）等について

③ワーキンググループ会議

- 令和元年6月21日（金）／於：岩手県公会堂（事務局）
概要 シンポジウムの企画内容、周知方法、スケジュール等について

④第2回実行委員会

- 令和元年7月4日（木）／於：岩手県公会堂（事務局）
概要 企画内容、出展申込状況、周知方法、スケジュールについて

⑤ワーキンググループ会議

- 令和元年7月19日（金）／於：岩手県産業会館（事務局）
概要 展示内容等の最終調整、出展者への注意事項について

■岩手県 ILC 推進局等との連携

①連絡会議

- ・毎月1回、相互の活動状況の報告や今後の活動計画等について意見交換を実施。

②行政連絡推進会議

第1回 平成31年4月25日（木）／於：奥州地区合同庁舎（事務局）

概要 要望活動について、平成31年度の事業計画について

第2回 令和元年8月27日（火）～28日（水）／於：大船渡市カメラホール（事務局）

概要 地域振興ビジョンについて、LCWSにおける自治体PRについて

■鈴木学長との定例連絡会

構成員 鈴木学長、吉岡客員教授、成田教授、岩手県 ILC 推進局、当推進協議会（齋藤理事、廣田理事、猿川事務局長）

- ・毎週火曜日午前9時からアイーナキャンパス会議室において、ILC の活動状況についての情報共有や意見交換を目的に実施。

（7）諸会議等

■役員会

①第1回役員会（※終了後、山下特任教授による講演会を開催）

令和元年6月10日（月）12:20～13:00／於：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング

議事（1）平成30年度事業報告並びに収支決算について

（2）令和元年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について

講話 「ILC プロジェクト 最新の状況について」

東京大学 特任教授 山下 了 氏

②第2回役員会（※終了後、山下特任教授による講演会を開催）

令和元年12月12日（木）14:00～14:30／於：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング

議事（1）所属機関の人事異動に伴う役員の選任について

（2）令和元年度上期事業について

講話 「ILC プロジェクト 最新の状況について」

東京大学 特任教授 山下 了 氏

■幹事会

①第1回幹事会

令和元年5月30日（木）15:00～／於：盛岡商工会議所

議事（1）役員会提出議題について

②第2回幹事会

令和元年12月3日（火）15:00～／於：盛岡商工会議所

議事（1）上半期事業進捗状況報告等

■監査会

令和元年5月30日（木）16：00～／於：盛岡商工会議所

・平成30年度会計監査

（8）会員加入状況（令和2年3月31日現在）

合計603会員（法人・団体会員 532会員、個人会員 71会員）

*16会員減：年度当初 619会員（法人等543、個人76）

令和元年度 岩手県国際リニアコライダー推進協議会 収支決算書

自)平成31年 4月 1日

至)令和 2年 3月31日

■収入の部

(単位:円)

項 目	決算額	予算額	対比増減(△)	備 考
1. 会費	11,658,500	12,110,000	△ 451,500	
(1) 法人会費	11,323,500	11,720,000	△ 396,500	予算:519会員/586口 → 決算:514会員/566口
(2) 個人会費	335,000	390,000	△ 55,000	予算:70会員/80口 → 決算:60会員/67口
2. 負担金	500,000	500,000	0	@100,000×経済5団体
3. 雑収入	2,388,274	401,412	1,986,862	ILCうちわ負担金72万、ILC関連グッズ負担金53万、ILCリーフレット負担金36万、寄附金(みちのくコカ・コーラ共生会)28万、決算利息 ほか
4. 繰越金	5,868,588	5,868,588	0	
合 計	20,415,362	18,880,000	1,535,362	

■支出の部

(単位:円)

項 目	決算額	予算額	対比増減(△)	備 考
1. 事業費	12,913,643	16,180,000	△ 3,266,357	AAA広報負担金 250万 海外視察関連費 134万 関係団体調査事業旅費 109万 LCWS2019に係る事業費・支援費 102万 東北ILC準備室負担金 100万 要望関係旅費等 99万 年賀はがき・うちわ等啓発グッズ代 96万 HP運営管理費 43万 ILCリーフレット代 36万 報告書等印刷費 34万 真空展出展支援費 25万 理研齋藤氏巡回授業 20万 ILC動画作成関連費 12万 関係団体会費 10万 …ほか
2. 会議費	247,110	250,000	△ 2,890	役員会・幹事会開催費
3. 事務費	1,745,109	2,000,000	△ 254,891	
(1) 旅費	181,100	350,000	△ 168,900	推進団体総会等参加費
(2) 印刷費	79,921	150,000	△ 70,079	資料コピー代、封筒代ほか
(3) 通信運搬費	284,088	300,000	△ 15,912	事業報告書・講演会案内等配送料
(4) 事務委託料	1,200,000	1,200,000	0	事務委託料
4. 雑費	74,644	150,000	△ 75,356	振込手数料、消耗品ほか
5. 予備費	0	300,000	△ 300,000	
合 計	14,980,506	18,880,000	△ 3,899,494	

次年度繰越

5,434,856

貸借対照表

令和2年3月31日

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	5,434,856	流動負債	0
現金	0		
預金	5,434,856		
未収金	0		
固定資産	0	未処分剰余金	5,434,856
		当期剰余金	5,434,856
合 計	5,434,856	合 計	5,434,856

財 産 目 録

令和2年3月31日

■資産の部

(単位:円)

1. 現金	0
2. 普通預金	5,434,856 (岩手銀行)
3. 未収金	0

資産合計 5,434,856

■負債の部

(単位:円)

負債合計 0

差引正味財産 5,434,856

令和元年度会計監査報告書

岩手県国際リニアコライダー推進協議会の令和元年度収支決算について監査をいたしましたところ、収入、支出ともに諸帳簿及び関係書類等と適合し、適正かつ正確に処理されていることを確認いたしましたので、ここに報告いたします。

令和2年5月28日

岩手県国際リニアコライダー推進協議会

監事 熊谷 敏 裕



監事 菅原 和 弘



岩手県国際リニアコライダー推進協議会 令和２年度事業計画（案）

令和２年２月２０日、文部科学省は国際研究者組織（ICFA/LCB）に対して「関心を持って米欧との意見交換を実施する」との新たな表明を行い、ILC 国会議員連盟河村会長もスピーチを行った。ICFA はこの報告を受けて、「日本に ILC がタイムリーに建設されることを望む」「国際推進チームの設立を推奨する」との踏み込んだ声明を発表した。高エネルギー加速器研究機構（KEK）は、準備段階への移行を促進するための国際推進チームをホストし、ILC 建設準備段階の計画を策定していくこととしている。

一方、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により欧州素粒子物理戦略の策定が５月から延期となるなど、感染拡大の甚大な影響は深刻さを増している状況にある。

こうした国内外の状況を踏まえて、KEK、先端加速器科学技術推進協議会（AAA）等との連携を一層強化してオールジャパン体制で ILC 実現に向けて取り組むとともに、岩手県や関係自治体とともに引き続き地元からの情報提供や受け入れ態勢の整備・準備活動に取り組む。

さらに、ILC がもたらす効果は多分野・広範囲にわたるものであり、昨年７月に岩手県で策定した「ILC による地域振興ビジョン」や「地球村創生ビジョン」の提言をもとに、ILC を契機とした地方創生への理解の促進とまちづくり等の推進に努める。

ILC 国会議員連盟、ILC 推進関係団体との連携を強化し、早期実現に向けた要望活動を行うとともに、ILC 実現を岩手県から東北、日本全国に広げる活動を切れ目なく積極的に展開する。

（１）国等への要望活動の強化

■岩手県、東北 ILC 推進協議会等と連携した要望活動

■岩手県国際リニアコライダー推進協議会による要望活動

■政産官学連携による要望活動

■リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟、自民党 ILC 誘致実現連絡協議会との連携強化

■経済３団体（日本商工会議所、日本経済団体連合会、経済同友会）との連携強化

（２）国内・外への ILC 実現にむけた活動

■国内 PR の強化

ILC の連携推進体制の強化のために研究者、KEK、AAA、岩手県、東北 ILC 推進協議会等で構成される ILC 推進連絡会によるオールジャパンとしての活動に積極的に参画する。

また、関係団体が一体となり、新聞等メディア等への働きかけや ILC ポータルサイト（AAA: ILC プロジェクト）、SNS を活用し、ILC プロジェクト動画等の情報発信を積極的に展開するとともに、国際シンポジウム等の開催支援など ILC 関連イベントの企画・実施を推進する。

■海外への情報発信強化と海外での活動支援

海外要人や研究者の視察受入の機会を有効に活用し、海外への情報発信に努める。

当推進協議会 HP 内「THE KITAKAMI TIMES」等を活用して ILC 実現に取り組む情報や北上サイトの魅力などを世界に向けて積極的な情報発信を行う。

■普及啓発活動

地球村創生ビジョン等、ILC を契機とした地方創生をテーマとした講演会や、ILC の国内外の状況を発信するなど、県民に対する幅広い啓発活動や、小・中学生を対象としたセミナー、岩手県が主催するサイエンスシンポジウムに関係団体等と連携して出展を行う。

また、例年開催されている全国イベントである真空展 2020 や KEK 一般公開デー等、県外でのイベントにも積極的に参画する。

■岩手県 ILC 連携室オープンラボ活用支援

ILC の情報発信拠点、ILC を契機とした産業、人材育成、研究開発の拠点として、平成 30 年 4 月に岩手県先端科学技術研究センター内に開設。関連産業の参入を目指す事業者や学生などを対象に啓発活動を行っており、積極的な活用の支援を行う。

(3) 調査・研究活動

■岩手県、いわて加速器関連産業研究会と連携して、ILC への加速器産業等参入機会の創出やネットワーク構築の支援に取り組む。

■東北 ILC 準備室後継組織の活動支援

KEK がホストして国際推進チームを設立し、ILC 建設準備段階の計画を策定していく動きを踏まえて、東北の関係自治体などで国際推進チームに対応する組織の設立を検討している。当推進協議会としては、立ち上げを支援し、まちづくりや ILC の技術移転等、ILC 受け入れに向けた準備活動に取り組む。

(4) 広報活動

■広報「いわて ILC レター」を新たに作成し、国内外の情報を会員に発信する。

発信コンテンツ例 ・国内外推進イベントの状況

・学生や関係者に ILC 誘致活動に関わり得た経験についてのインタビュー

・ILC 国会議員連盟や推進団体の活動

■啓発グッズ、年賀状等の作成・配布、「ILC そばっち」の活用

(5) 組織強化活動

■ILC 実現にむけた活動を強化するため、当推進協議会の会員増強に努める。

■AAA、東北 ILC 推進協議会等と産学官連携の強化を図る。

(6) 諸会議等

■役員会・幹事会の開催

令和2年度 岩手県国際リニアコライダー推進協議会 収支予算書(案)

自)令和 2年 4月 1日

至)令和 3年 3月31日

■収入の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	対比増減(△)	備 考
1. 会費	11,500,000	12,110,000	△ 610,000	
(1)法人会費	11,200,000	11,720,000	△ 520,000	510会員／560口
(2)個人会費	300,000	390,000	△ 90,000	55会員／60口
2. 負担金	500,000	500,000	0	@100,000×経済5団体
3. 雑収入	315,144	401,412	△ 86,268	ILC関連グッズ負担金等
4. 繰越金	5,434,856	5,868,588	△ 433,732	
合 計	17,750,000	18,880,000	△ 1,130,000	

■支出の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	対比増減(△)	備 考
1. 事業費	15,350,000	16,180,000	△ 830,000	AAA等ILC推進団体共同プロジェクト推進負担金:500万 講演会等開催費:150万 東北ILC準備室後継組織関連費:150万 AAA等ILC推進団体調査事業旅費等:120万 要望関係旅費:100万 ILC関連グッズ作成等継続事業費:100万 齋藤先生特別授業:50万 HP管理費(日本語・英語):50万 事業報告書等印刷代:40万 県内外イベント関連費:20万 海外要人受入支援費:20万 ILCレター等広報費:20万 関係団体諸会費:15万 岩手イベント等事業予備費:200万
2. 会議費	150,000	250,000	△ 100,000	役員会・幹事会開催費
3. 事務費	1,800,000	2,000,000	△ 200,000	
(1)旅費	150,000	350,000	△ 200,000	関係団体総会等旅費
(2)印刷費	150,000	150,000	0	資料コピー代、封筒代ほか
(3)通信運搬費	300,000	300,000	0	広報物・事業報告書等配送料
(4)事務委託料	1,200,000	1,200,000	0	事務委託料
4. 雑費	150,000	150,000	0	振込手数料、消耗品ほか
5. 予備費	300,000	300,000	0	
合 計	17,750,000	18,880,000	△ 1,130,000	